

【 姫 島 村 】

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 調査結果の分析

小学校：国語

本校の国語の平均正答率は 59.0%であり、全国平均の 60.9%および大分県平均の 63.0%を下回った。領域別では、「話すこと・聞くこと（74.1%）」や「言葉の特徴や使い方（72.2%）」において全国を上回る良好な結果が得られた一方、「書くこと」の正答率は 33.3%に留まり、全国平均（45.7%）を 12.4 ポイント下回る大きな課題となっている。

具体的には、問題 4 の「資料の言葉や文を用いながら条件を満たして作文する問題」において、本校の正答率は 11.1%（目標値 35.9%）であった。正解できなかった児童の多くは、文章を抜き出して書く条件を満たしておらず、資料中のどの言葉を使うべきか意識できていなかったと推測される。複数の情報を処理して、必要事項をまとめて書くという問題については、本校の他学年にも弱さが見られた問題で、学校全体の課題としてとらえていくことが必要である。

児童質問紙では、授業内での「発表」や「考えをまとめる」活動（児童質問紙 Q38, Q40）には全員が肯定的であるが、国語に対する苦手意識が非常に強い（Q53「好き」33.3%）。

2 具体的な改善方策

小学校：国語

- ・基礎的言語事項の定着を図るため、朝の「かにっこタイム」や宿題を活用し、ことわざ、熟語、漢字等の習得に向けた反復学習を継続する。また、日頃の授業において、自分の考えやその理由を文章で書く活動を習慣化し、論理的な思考力と記述力を高めていく。

- ・記述式問題に対しては、類似問題に繰り返し取り組む機会を設け、条件を確実に満たして最後まで書き切る意欲を育成する。

- ・「発表」や「考えをまとめる」活動に好意的な児童が多く、落ち着いて学習できる集団である。出力することへの意欲を生かし、そうした情報を「書く」ことにも目を向けさせ、書いたものが他人に伝わる喜びを感じられるような授業展開を考えていく。

【 姫 島 村 】

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

1 調査結果の分析

小学校：算数

調査結果の分析 算数の平均正答率は55.0%であり、全国平均（56.4%）および県平均（58.0%）を下回る結果となった。

領域別では、「測定（88.9%）」や「データの活用（52.8%）」が全国平均を上回り強みとなっている一方、「変化と関係」の正答率は25.9%であり、全国平均（41.1%）を15.2ポイント下回った。特に課題が見られたのは問題1(3)の「割合を用いた数量の算出」で、本校の正答率は33.3%（目標値53.1%）に留まった。誤答の多くは、100という数値をそのまま式に用いており、割合の意味や数量関係を正確に把握できていない実態が明らかとなった。情報量が多い問題になると情報を整理する力が不足し、類型外の解答をする児童が増える傾向にある。国語科でもそうであったが、多くの情報から必要なものを整理し、計算したり、論述したりすることに弱さがある。

質問紙調査においても、算数の内容が「よく分かる」と回答した児童は44.4%に留まっており、自信のなさが伺えた。

2 具体的な改善方策

小学校：算数

- ・割合や数量関係の理解を深めるため、図や数直線を積極的に活用して問題場면을視覚化し、見通しを持って解き進める指導を強化する。
- ・単に答えを出すだけでなく、「根拠」と「結論」を明確に意識させ、筋道を立てて説明する数学的思考力・表現力の育成に継続的に取り組む。また、データの活用領域については、グラフの目盛りや数値の読み取りといった基礎的な技能が不足している実態を踏まえ、日常の授業において資料を比較・検討する場면을意図的に設け、全員が確実に理解できるよう個別の支援を充実させる
- ・限られた時間内で正確に情報を整理して解く意識を高めるため、「かっこタイム」等での練習を通じ、長文問題への抵抗感を払拭させる。
- ・強みである対話的な学びへの意欲を基盤としつつ、記述する力を向上させることと、数量関係の正確な把握を重点項目として指導改善に取り組んでいく。

【 姫 島 村 】

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問調査）

1 調査結果の概要

小学校：学校質問調査

全国平均と比較して肯定的な回答の割合が顕著に高い項目は、授業における発表の工夫（Q38：本校 100%、全国比プラス 33.6 ポイント）、先生や大人への相談（Q13：本校 100%、全国比プラス 29.4 ポイント）、学習したことを生かした考えのまとめ（Q40：本校 100%、全国比プラス 26.6 ポイント）の3点で、本校児童は自分の考えを工夫して伝えたり、既習事項を活用して思考を整理したりする活動に自信を持って取り組んでいると言える。また、困りごとを大人に相談できるという高い心理的安全性は、対話的な学びを支える重要な基盤となっていると思われる。

一方、全国平均を大きく下回ったのは、国語の学習に対する好意度（Q53：本校 33.3%、全国比マイナス 24.1 ポイント）、ICT 機器を用いた文章作成の自信（Q36-1：本校 55.5%、全国比マイナス 23.6 ポイント）、国語の得意意識（Q51：本校 44.4%、全国比マイナス 16.0 ポイント）の3点である。国語に関しては、苦手意識が顕著である。また、ICT 活用においてプレゼンテーションの作成等には自信が見られるものの、文字やコメントによる文章作成については自己評価が低い。これらは学力テストの結果とも関連している。

生活習慣面では、朝食の摂取習慣（Q1：本校 77.8%、全国比マイナス 15.5 ポイント）に課題が見られ、学習の土台となる基本的な生活習慣についても呼びかけが必要である。

小学校：学校質問調査

・国語における授業内での活発な言語活動を教師が具体的に価値付けし、児童の自己肯定感を高め、教科に対する自信と意欲の醸成を図る。特に発表やまとめの場面での成功体験を積み重ねさせることで、嫌い・苦手という意識を払拭し、学力調査における記述問題等への粘り強い取り組みへと繋げていく。

・児童が自信を欠いている ICT を用いた文章作成について、短いコメントの入力やデジタル上での意見交換など、心理的障壁の低い活動から段階的に取り組ませる。タイピング技能の習得支援も含め、日常的な文章作成活動の中に ICT を効果的に組み込み、表現手段としての自信を育てる。

・朝食の摂取が脳の働きや学習集中力に与える影響について、保健指導等を通じて児童への啓発を行う。同時に、家庭に対しても、かにっこウィーク等を通して、規則正しい生活習慣の重要性について理解と協力を求めていく。

【 姫 島 村 】

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 調査結果の分析（○：成果 △：課題）

中学校：国語

- 本校正答数が県や全国の正答数を上回っている。
- 「読むこと」や「書くこと」については、県や全国の正答率を上回っている。
- 「言葉の特徴や使い方」についての正答率が県や全国と比較すると高い。
- △「読むこと」については、内容を要約する問題や二つの例文を比べて内容を読み取る問題の無回答率が16.7%と高い。
- △「情報の扱い方」や「話すこと・聞くこと」については、県や全国の正答率を下回っている。
- △文章を読んで、自分の意見を書く問題の正答率が県や全国を下回っている。

2 具体的な改善方策

中学校：国語

- ・基礎基本の定着を引き続き図っていくために、漢字・語句・文法の小テストを既習事項から行う。
- ・要約の練習を授業の帯活動やまとめで多く入れる。
- ・二つの文章を比較して読む際のコツ（線を引く・共通点や相違点に着目）を日頃の授業で扱う。
- ・「話すこと・聞くこと」の正答率を上げるため、リスニングの問題に取り組む機会を増やす。
- ・音読が書く力や聞く力につながるため、音読練習の時間を増やす。
- ・考えをノートに書き発言する場面では、意見だけではなく理由まで表現させるようにする。

【 姫 島 村 】

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

1 調査結果の分析（○：成果 △：課題）

中学校：数学

- 全体の正答率および、「知識・技能」「思考・判断・表現」の両観点別では、県・全国と比較して大きく上回った。
- 無回答率は1.0%と極めて低く、何とか自力で解決しようとする姿勢・意欲を感じる。
（令和8年度実施：全16問×6名受験＝96問中 無回答は1問のみ）
- △4つの領域別では「数と式」「関数」「データの活用」領域で、県・全国を上回っているが、「図形」領域において、県・全国の前年調査を下回った。
- △「図形」領域で、県・全国の前年調査を下回った要因として、「三角形の合同の証明」に関する問題の正答率が低かったことがあげられる。特に、証明を最後まできちんと完成できた生徒がいなかった。
- △問題別では、「2直線が平行であるための条件を問う問題」「累積度数の意味を問う問題」および「証明」に関する問題において正答率が、県・全国の前年調査を下回った。

2 具体的な改善方策

中学校：数学

- ・観点別「思考・判断・表現」において、県・全国の前年調査を上回っていることから、引き続き授業における生徒同士の対話や、数学的な用語を用いて生徒に説明させる場面、及び生徒の何気ない発言に価値を持たせ「まとめ」「ふりかえり」につなげる場면을積極的に取り入れていく。
- ・問題別で課題の見られた内容「平行条件」「累積度数」「証明」については、3年生の教育課程の中でも関連の深い分野があるので、その際に1・2年生の復習を行っていく。
- ・習熟の遅れがちな生徒に対する個別の支援を継続し、習熟の進んでいる生徒がその支援を担う場面を設定するなど、全員が授業に意欲的に参加できる工夫を行う。

【 姫 島 村 】

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：英語）

1 調査結果の分析（○：成果 △：課題）

中学校：英語

- 無解答率がすべての項目で0%
- 本校正答数が県や全国の正答数を上回っている。
- 正答率の中でも特に知識・技能の分野において正答率が高い。
- 「読むこと」の分野において、正答率が高い。
- △3技能のすべての分野において、応用問題への正答率が著しく低くなっている。
- △「読むこと」では、短い文章を読み概要を捉えることが課題である。
- △「書くこと」では、まとまりのある文章を書く分野に苦手意識が見られ英作文への課題がある。
- △「聞くこと」では、自分の立場から必要な情報を聞き取ったり、概要を捉えたりすることが課題である。

2 具体的な改善方策

中学校：英語

- ・基礎基本の定着を引き続き図っていくために、small talk を既習事項から行う。
- ・入試を意識した文章の読み方のコツ(スラッシュ読み・時間を意識)を日頃の授業で扱う。
- ・英作文の練習を授業の帯活動やまとめで多く入れる。
- ・2学期より、ALT を活用して everyday ノートでの英文でのやり取りを行う。
- ・授業での英語使用率を上げていく。また、ALT と連携して英語を聞く機会を増やしていく。
- ・音読が書く力や聞く力につながるため、音読練習の時間を増やし、宿題に取り入れる。

【 姫 島 村 】

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査結果（生徒質問調査）

1 調査結果の概要（○：成果 △：課題）

生徒質問調査

- 将来の夢や目標を持っている割合が高い。
- あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されない。
- 新聞を週に 1 回以上読んでいる。
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思っている。
- △解答時間は十分でなかった。（国語・数学）
- △ICT 機器を使って、英語の音声や話す練習を週 1 回以上している割合が低い。
- △本を読んだり借りたりするために、図書館に月 1 回以上行く割合が低い。

2 姫島村の生徒質問調査の調査結果をふまえて

【中学校】

- ・授業態度も良く、意欲的に授業に取り組んでいる。授業で理解できたことを定着させるために、復習を中心とした家庭学習のあり方を指導していきたい。
- ・授業における ICT 機器の効果的な活用を行い、教師の授業改善を図る。
- ・設問などの問題文を効率良く読むための指導を行い、解答時間を自分で管理できるように練習を行っていく。
- ・必要とされる生徒には、放課後や休み時間を活用して個別指導を行っていく。

【 姫 島 村 】

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要（○：成果 △：課題）

学校質問紙

- ・各教科の指導方法
○生徒一人ひとりに応じて、学習課題や活動を工夫している。
○授業中の私語が少なく、落ち着いている。
△生徒一人ひとりに配備されたタブレットなどの ICT 機器を、教科によっては活用しきれていない状況がある。
- ・家庭学習
○家庭学習について、生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような指導・助言を行えた。
- ・家庭や地域との連携等
○教育課程の趣旨を地域と共有する機会を設け、学校の課題について情報共有できた。

2 結果をふまえて

■教職員の授業改善・校内研究の推進

- ・ICT 機器の授業や家庭学習における有効活用について教職員研修を行う。そして、共通理解のもと積極的に ICT 機器活用を推進していく。
- ・1 時間の授業の「めあて」や「課題」を、興味が湧き、考えたい内容のものに設定する。
- ・ペアやグループ活動を取り入れた学習の場を設定した授業を実践する。

■学校経営

- ・地域・家庭・学校関係者との連携をより深めていく。
- ・家庭と協力して、生徒の学習意欲を高めたり、褒めて伸ばしたりする取り組みを今後も続けていく。